

博士（人間科学）学位論文 概要書

小中学生の発達的变化をふまえた問題解決訓練の
攻撃行動変容効果

Effects of developmentally-sensitive problem-solving
training on aggressive behavior in children and
adolescents.

2009年 1月

早稲田大学大学院 人間科学研究科

高橋 史

Takahashi, Fumito

研究指導教員： 嶋田 洋徳 教授

本研究の目的は、わが国の小中学生の攻撃行動に対する問題解決訓練の適用について、発達の側面に配慮した構成と介入効果の促進に関する具体的手続きの提案を行い、子どもの攻撃行動への臨床的実践に関する考察を行うことであった。

第1章では、従来の攻撃行動と社会的問題解決に関する研究について展望された。第2章においては、第1章の議論を受けて、①わが国の小中学生における外顯的行動としての攻撃行動および問題解決プロセスを測定するツールが整備されていない、②社会的問題解決と攻撃行動との関連について、発達の見地から検討を行った研究例が見られない、③怒り感情のコントロールによる社会的問題解決の改善促進効果についての検討が不十分である、④環境からのフィードバックループの活用による社会的問題解決の改善促進効果についての検討が不十分である、という4点が問題点として指摘された。そして、これらの問題点を明らかにすることの意義が述べられた。

第3章では、問題点①を解決するために、わが国の小中学生における攻撃行動と問題解決プロセスの測定ツールの作成が行われた。まず、子ども用攻撃行動尺度および教師評定用攻撃行動尺度が作成され、信頼性と妥当性に関する検討が行われた。次に、解決策の案出テストおよび解決策の評価テストが作成された。記述統計量の学年間比較を行った結果、両テストの得点は理論的に推測される発達的变化を反映しており、十分に妥当なテストであることが確認された。

第4章では、問題点②を解決するために、問題解決プロセスと攻撃行動の機能的関連について、学年間比較を行った。その結果、「解決策の案出」プロセスはすべての学年において攻撃行動を予測したのに対して、「解決策の評価」プロセスについては、およそ小学6年生以上の子どもにおいて攻撃行動の予測力を有するようになることが明らかになった。

第5章では、問題点③および④を解決するために、実験的手法を用いた検討を行った。まず、解決策の案出訓練の実施時に怒り感情への対処としてのリラクゼーション訓練を併用することの効果について、小学5年生と中学1年生を対象として検討した。その結果、怒り感情が高まるほど「解決策の案出」プロセスにおいて攻撃的反応が案出されやすくなること、および、リラクゼーション訓練の実施によって怒り感情の高まりが予防できることが明らかになった。また、「解決策の案出」プロセスが小学5年生と中学1年生の両方において攻撃行動と関連するということが追認された。次に、解決策の評価訓練の実施時に環境からのフィードバックループの活用を促す解決策の効果検証訓練を併用することの効果について、小学5年生と中学1年生を対象として検討した。その結果、解決策の有効性に関する確信度が「解決策の評価」プロセスにおける自発的な評価反応と関連していること、および、解決策の効果検証訓練によって解決策の有効性に関する確信度が改善されることが明らかになった。また、「解決策の評価」プロセスは小学5年生においては攻撃行動に対して機能せず、中学1年生においては機能するということが追認された。

第6章では、第3章から第5章までの結果を受けて、社会的問題解決の機能の発達的变化および社会的問題解決の改善促進要因を考慮した問題解決訓練プログラムを構成し、攻撃行動の減少効果について検討した。その結果、従来型の問題解決訓練よりも、問題解決プロセスおよび攻撃行動について顕著な改善が見られ、本研究において構成された問題解決訓練の有効性が確認された。また、攻撃行動の機能的背景や臨床像によって対象者を分類し、介入効果の相違について検討した結果、本研究において構成された問題解決訓練は、対象者の状態像に応じた治療的機能をもつことが明らかになった。

最後に第7章においては、本研究の結果に関する総括的な考察が論じられた。そ

の概要は、①およそ小学5年生以下の対象者に問題解決訓練を適用する際には解決策の案出訓練に焦点を絞った介入が有効である、②問題解決訓練の構成においては相乗効果を有する介入技法同士を用いることで少ないセッション数でも一定の効果が期待できる、③問題解決訓練の構成においては相乗効果を有する介入技法同士を用いることで攻撃的問題解決の過度な助長が予防できる、であった。そして、本研究で得られた知見から示唆される臨床心理学的意義が考察された。